

03

DECEMBER
2023

GRASS NEWSLETTER



I GRASS 開設記念ワークショップ

今年の4月に GRASS が開設されたにもかかわらず開設記念行事をやっていないのは残念だとのギータ・モハン教授の発案から、2023 年 11 月 28 日に”Harmonizing Cross-disciplinary Collaboration for Sustainability Challenges: The Dissolving Margins”と題する GRASS 開設記念ワークショップを開催しました。こうした開設記念式典には本来基調講演に学会を代表するような方をお招きするのが一般的だとは思いますが、今年度は共通で利用できる予算が少なく、思い切って GRASS のスタッフがサステナビリティ研究に挑戦するにあたりどのような課題があり、どのようにその課題を乗り越えるのか、また、どのように専門分野を超えて協力しあえるのかを語り合うワークショップを開催するに至りました。こうした趣旨に賛同いただき、遠路ご参加いただいた竹内憲司教授（京都大学）、山本雅資教授（東海大学）、天阜華織准教授（大阪公立大学）、伊藤岳准教授（大阪公立大学）にはスタッフ一同とても感謝しています。また、本学 Zhenryu Lei 助教にもプレゼンテーションをしていただき、UiT ノルウェー北極大学エリザベス・クーパー教授も熱心に討論に参加していただきました。本学大学院持続可能社会創成学環グローバル SDGs プログラムの院生さんもたくさん参加してくださり、にぎやかなワークショップとなりました。どのように分野を超えてサステナビリティ学を推進していくことができるかは、このワークショップのように、互いの研究に敬意を払いながら対話を続けていくことなのだと、気づかされた開設記念ワークショップとなりました。

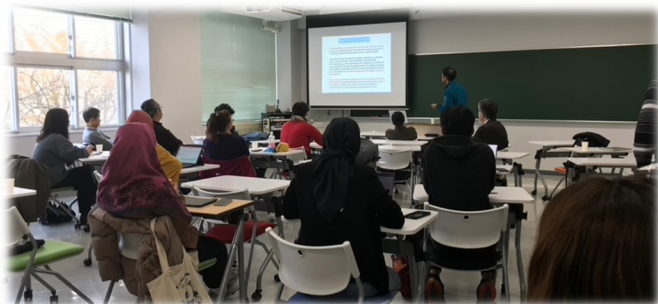


写真) ワークショップの様子



写真) イチョウの絨毯のうえでの参加者記念撮影

II ネパールの洪水氾濫モデリングに関する講演

ネパールの首都カトマンズは、後背地のヒマラヤ山脈に囲まれた峡谷の街であり、南部に広がる平野部では雨季になると急な標高差によって洪水が引き起こされる。郊外の農村地域では農作物や家畜に広範な被害をもたらし、急速に都市化するカトマンズでは、都市生活に甚大な影響を与えている。洪水は、バングラディッシュやインドでも頻繁に生じ、南アジアの人々の安全安心にとって焦眉の課題である。また、洪水は陸上国境を越えて他国にも被害をもたらすため、決して一国の国内問題に留まらない。本センターには水管理や伝統的な農村コミュニティを研究対象とするスタッフもいるし、本学大学院持続可能創成学環の院生には多くの南アジア諸国からの院生もいるため、ネパールの洪水問題に関する関心は高い。10 月 24 日、本センターはネパールのポハラ大学科学工学部からビナヤ・クマール・ミシュラ（Binaya Kumar Mishra）教授をお招きし、Global Research Seminar Series を開催しました。ミシュラ教授の報告論題は、Rainfall – Runoff – Flood Inundation Modeling in Kathmandu Valley, Nepal でした。

ミシュラ教授は、現在、本センターのチャクラボルティ准教授が実施するアジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）プロジェクトの研究協力者ということもあり、ミシュラ教授が日本に滞在されていることを知り、急遽富山にお越し頂き、GRASS メンバーとの交流を図り、今後のさらなる研究協力の可能性を探ろうという機会にしようと考えていました。チャクラボルティ准教授が招聘を GRASS メンバーに告知したのがセミナー開催の1週間前。事務スタッフの谷口奈那さんに駆け足で広報を準備していただき、実現したセミナーでした。谷口さん、ご苦労様でした。

カトマンズの洪水は、すぐにインド国境に及ぶのですが、インドでは国境で洪水を食い止めようとするため、洪水がネパール側に滞留し、被害が長期化するなど、国境研究にとっても興味深い講演で、参加したバングラデシュ出身の院生でインドとバングラデシュの国境地域問題に取り組むミラット君が講演後に熱心に質問していたのが印象的でした。



写真) 本センター楊研究員（右）の質問に答えるミシュラ教授（左）

Ⅲ アリゾナにて GRASS 主宰パネル企画記

GRASS では、米国アリゾナ州ツーソンで開催された Society for Human Ecology (SHE) による第 25 回国際会議 Sowing Human Ecological Futures: Vision, Justice, and Diversity にて GRASS 主宰のセッションを開催しました。GRASS として国際会議のセッションを主催することは、初めての試みです。セッション名は、"Towards Sustainable Forest Biomass Utilization and Climate Resilience: Integrating Research and Practices"です。このセッションは、GRASS で現在進めているプロジェクトに基づき、チャクラボルティ准教授が企画し、彼の他にギータ・モハン教授、シシル・シャーマン助教、楊潔研究員が現地で発表を行いました。ギータ教授は"Optimizing Wood Biomass Utilization: A Resource Circulation Strategy for Building Sustainable and Resilient Societies"を、チャクラボルティ准教授は"Sustainable Forestry for Resilience: The Case of Forest Management in Japan"を、シシル助教は"Evaluating the Impact of Road Construction on Landscape and Environment in Nakatsugawa, Gifu Prefecture, Japan"を、楊研究員は"The Dark Side of Storm: Nightlight Data Analysis of the Relationship between Climate Disaster and Inequality"を発表しました。セッションでは、スペイン、ポルトガル、フィリピン、米国からの様々な分野の研究者との交流が行われ、関心を集めました。

GRASS スタッフ帰国後まもなくして、フィリピン大学ロスバニョスのヒューマン・エコロジー・カレッジやスペインのアリカンテ大学から GRASS との共同研究や学術交流への関心を示す連絡がきました。GRASS としての国際会議でのセッション企画は、個別研究への関心を生むだけでなく、組織間の学術交流や共同研究を生み出すきっかけになることを実感する機会となりました。



写真) 会場となったアリゾナ大学の前で

GRASS NEWS

【イベント・往来】

2023 年 9 月 13 日-11 月 28 日 : UiT ノルウェー北極大学 エリザベス・クーパー教授が本センター和田教授との共同研究実施のため外国人客員研究員として赴任されました。共同研究テーマは「気候変動が北極および高山生態系に与える影響：緯度と融雪期が植物のフェノロジーに与える影響」で、無事研究を遂行し、帰国されました。

2023 年 11 月 11 日 : ドレスデン工科大学土木学部長 Jürgen Stamm 教授が GRASS を表敬訪問され、今後の学術交流の可能性に関して意見交換を行いました。

2023 年 10 月 24 日 : Global Research Seminar Series 2023 にて、Binaya Kumar Mishra 教授 (Pokhara University: Nepal) をお迎えし、Rainfall – Runoff – Flood Inundation Modeling in Kathmandu Valley, Nepal と題する講演をしていただきました。

2023 年 11 月 28 日 : GRASS 開設記念ワークショップ "Harmonizing Cross-disciplinary Collaboration for Sustainability Challenges: The Dissolving margins"を開催しました。

【GRASS スタッフの活動】

堀江典生 : 2023 年 9 月 30 日、北東アジア学会第 29 回学術研究大会 (北九州市立大学) において国際シンポジウム「多極化が進行するポストコロナの北東アジアにおける国境を越えた学術交流」にて「学術交流とウクライナ戦争」と題する報告を行うとともに、10 月 1 日に分科会にて「動員経済の形成と展開：安全保障化するロシア経済」と題する報告を行いました。

堀江典生 : 2023 年 10 月 9-10 日にカザフスタンのトゥラン大学で開催された International Conference "The Future of the Eurasian Migration System"に参加し、Migration and food security dilemmas on the eastern borderlands in Russia: Before and after the COVID-19 と題する報告を行いました。

堀江典生 : 2023 年 11 月 4-5 日、ロシア・東欧学会 2023 年度研究大会 (京都大学) において第 2 分科会の座長、第 5 分科会の討論者を務めました。

Geetha Mohan・Shamik Chakraborty・Shishir Sharmin, Jie Yang : 2023 年 11 月 4-9 日、米国アリゾナ州ツーソンで開催された XXVth International Conference of the Society for Human Ecology (SHE) にて GRASS がパネルを組織し、4 名の GRASS メンバーが報告を行いました。

堀江典生 : 2023 年 11 月 25 日に環日本海国際学術交流協会創立 30 周年記念シンポジウム (金沢市) にて講演を行いました。

【New article】

Bwire, C., Mohan, G., Karthe, D. et al. A systematic review of methodological tools for evaluating the water, energy, food, and one health nexus in transboundary water basins. Environmental Management 72, 598–613 (2023). <https://doi.org/10.1007/s00267-023-01841-w613>

Rani, C. R., Reddy, A. A., & Mohan, G. (2023). From formation to transformation of FPOs. Economic & Political Weekly, 58(36), 15.

Chakraborty, S., Yamamori, T., Su, J., Johnson, B. A., Kumar, P., Ashikaga, Y., & Gasparatos, A. (2023). Systematizing ecosystem change in coastal social-ecological systems: Perspectives from a multi-stakeholder approach in Nakatsu mudflat, Japan. Ocean & Coastal Management, 243, 106729.



〒930-8555 富山県富山市五福3190

研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>